

2021年度 第71回高文連道南支部 演劇発表大会

10月7日（木）14時40分から函館市民会館小ホールで、遺愛演劇部の発表がありました。遺愛オリジナル脚本『桐と桜と少女たち』を部員達は見事に演じきり、遺愛 LOVE をほんわかと味わいました。

遺愛では現在、築113年の本館（国の重要文化財）の修復工事が5年がかりで行われています。修復のためには、本館前に植えられていた大きな「桐の木」の幹を伐採し、樹齢120年ほどの「桜（ソメイヨシノ）の木」の枝を一部切らなければなりませんでした。

特に、遺愛の生徒たちの営みを長年見守り続けた「桐の木」の伐採には、寂しさを覚える同窓生・生徒たちが少なくありませんでした。その切ない思いがとてもしつわってくる演劇でした。

一方では、ところどころで修復工事中の写真がスクリーンに映し出され、創建当時の姿に戻す部屋もあることが紹介されていました。例えば、以前は講堂（礼拝堂）として使用されていた部屋は、1935年（昭和10年）に独立した大講堂（国の登録有形文化財）ができたので、いくつかの小部屋を設け、図書室や会議室として使われてきましたが、今回は元の講堂の形に戻すことにしました。

また、伐採した「桐の木」は、細かく切り分けられて現在乾燥しています。3年後の150周年にはそれを加工し、記念品にする予定です。

現役の生徒の皆さんはほとんど知らない本館にまつわる史実がこの劇にはたくさん散りばめられているので、ぜひ一度、皆で観劇できる機会を設けられたらと思いました。

2021年10月8日（金）



一場面



市民会館小ホール